

## 和泉中央南ハイツ

# 「防災力」高め市から認定

## 市内で4例目の最高認定

泉区の「和泉中央南ハイツ」(1974年竣工・184戸)がこのほど、備蓄や適切な防災設備の配置など災害対策が充分として市から「よこはま防災力向上マンション」に認定された。

同制度は災害に強いマンションづくりと周辺地域の防災力向上を目的に2022年からじまっ



認証の盾を持つ佐藤さん(前列左)と災害対策本部のメンバーら

たもの。認定基準は防災マニュアルの策定や飲料水等の備蓄が行われているかの「ソフト」、浸水対策や耐震性が確保されているかの「ハード」に分けられ、地域連携も行われていると「プラス」の評価を受ける。

同マンションは今回、ハードとソフト両方のプラス認定を受けた。これは認定開始以降、市内では4例目。和泉中央南ハイツ自治会会長の佐藤茂さんは「知らせを聞いて驚いた。努力が実を結んだ」と話す。

マニュアルなど作成同マンションで

は、2006年から「災害対策本部」を設置。佐藤さんは設置当時から総務として関わってきたという。認定は市に送る資料や現地調査をもとに行われ「特にソフト認定に関わる『防災マニュアル』の作成に時間がかかった」と佐藤さん。「発災時に住民がどう動くのかを本部のメンバーらで綿密に検討した」という。

また認定を受けるにあたり窓に掲げられる安否確認用のカードを作成。「救助求む」「無事です」が両面に印刷されているため、1枚で自分の状況を伝えることができる。

同認定は2年ごとの更新制だが、佐藤さんは「次回も同ランクの認定を受けられるよう努力を続けます」と意気込む。

2025年(令和7年)10月5日 日曜日

きょうの紙面



## 高齢化進む団地 地震への備え注力 15

入居から半世紀を迎えた横浜市内の団地が「防災力向上マンション」に認定された。居住者の高齢化も踏まえ、地震への備えに力を入れている。

関東大震災から100年以上が経過し、次の大規模地震が警戒されています。気象災害のリスクは日常化し、火山噴火も懸念されています。毎月第1・3日曜の「減災新聞」では、多様な視点で備えの在り方を探ります。情報はメール(gensai@kanagawa-np.co.jp)でお寄せください。

第705号

# 減災新聞

## 共助の力で「防災団地」



和泉中央南ハイツの防災倉庫に保管されている手作りの折り畳みテーブル。災害時にすぐに使えるグッズをほかにも用意している

### 横浜・和泉中央南ハイツ

「災害には就寝中に倒れてくる可能性がある。背の高い家具を配置しないようにします」「日頃利用している食料品の生活必需品を少し多めに購入しておく」「日常備蓄」なら簡単に備蓄ができます。同ハイツの自主防災委員会が今年4月にまとめた防災マニュアルでは、大規模地震を念頭に置いて自治会に備蓄を促す。水や食料、簡易トイレの備蓄を求め、各家庭の備蓄を促す。水や食料、簡易トイレの備蓄を求め、各家庭の備蓄を促す。水や食料、簡易トイレの備蓄を求め、各家庭の備蓄を促す。

1970年代半ばに建てられ、入居から半世紀を迎えた「和泉中央南ハイツ」(横浜市区、184戸)が8月、「よこはま防災力向上マンション」に仲間入りした。エレベーターのない4、5階建ての分譲団地で、市がこれまで同マンションに認定した物件の中で最も古い。居住者の高齢化を踏まえた対策を策定し、首都直下地震や南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、居住者同士はもちろんだ、周辺自治会との連携にも力を入れ、その時に備えている。



●安否確認用のカード。居住者に協力を呼びかけ、負担を減らす工夫も●物件や立地環境の特徴を踏まえ、地震への備えに力を入れている和泉中央南ハイツ

## 築50年、地震へ備え

「和泉中央南ハイツ」と呼ばれていた。完成は1974年で、81年以前の旧耐震基準で建てられた物件だが、耐震診断は実施済みで必要な強度は確保されている。起伏の少ない地域に立地し、敷地にはゆとりがある。東日本大震災後の2013年に設置した大型の備蓄倉庫に、板材や柱を使った手作りのトイレ、折り畳み式のリヤカーなど、使い勝手を考えていた。資機材を備える。エレベーターがなく、狭い階段を挟んで在宅避難ができるのでは。佐藤会長は「いつ起きるか分からない大地震に向けて、石の備えを整えたい。火災が起きなければ、それぞれの自宅在宅避難ができるのでは。デンス(戸塚区)。

で各階の住戸が向き合っているため、搬送時の自由度が高い布製の担架を用意。同ハイツ自治会の佐藤会長(78)によると、一般的な担架では階段を曲がらず、上階で負傷した人を運べない」という構造上の課題を考慮したものだ。大地震発生後に各住戸の窓に掲げてもらう安否確認用のカードは「救助求む」と「無事です」を1枚にまとめ、表と裏で使い分けられるようにした。単身の高齢者が増える中、共助の負担を減らす工夫の一つという。



和泉中央南ハイツ



喜びの表情を見せる佐藤会長（中央）と役員メンバー

和泉中央南  
ハイツ自治会

## HP閲覧数が10万回突破

「まめな更新積み重ね」

インターネットでの情報発信に力を入れている

和泉中央南ハイツ自治会  
(156世帯／佐藤茂会

長)のホームページの閲覧数が1月13日、10万回を突破した。

「毎朝ホームページを見るのが日課。今日何が起きるかすぐわかるので便利」と同自治会役員らが話すように、コロナ禍で対面の交流が減少する中で住民の重要な情報源となっているという。

工夫を凝らし  
飽きさせず

同自治会のホームページにはその日にあった出来事や、自治会の報告書

のほか「今日の格言」など多くのトピックスが並んでいる。昨年5月に閲覧数5万回を突破して以降はさらに便利なページとすべく、自治会の行事の予定表なども追加して掲載内容を充実させていったという。

ホームページ更新のほとんどは佐藤会長が手がけている。「1日に3、4回、更新はまめに続けている。訪問者に飽きさせないように工夫していくのが重要だと思う」と佐藤会長は話す。

今後も訪問者数を伸ばしていきたいながら、ホームページの更新・管理ができる後継者の育成にも力を入れていくという。

和泉中央南  
ハイツ自治会

## 情報伝達にHP積極活用

### およそ1年で訪問5万超

役員メンバー（上）、案内などには必ず二次元コードを掲載



区連会ホームページでは、2011年度から連合、単位町会ごとにページ作成が可能となっており、現在12連合と41自治会町内会が個別ページを運営している。

アクセスカウンターは昨年3月、要望を受けて設置されたもの。5月27日現在、1万超は和泉中央南ハイツ5万1500、中田連合自治会1万3000、新橋下自治会1万1800の3つ。そのほかは5千から1千前後などとなっている。

和泉中央南ハイツでは、佐藤会長が一人で更新作業を担当。ほぼ毎日、多いときは一日2、3回の作業を行う。ページを見ると、古く

和泉中央南ハイツ自治会（156世帯／佐藤茂会長）が、コロナの影響で交流の減る中、泉区連合自治会町内会長会ホームページを活用した情報発信に力を入れている。昨年3月のアクセスカウンター設置以降、5月19日には訪問者数が5万を突破。「活動の再確認、情報収集など使い方は様々。内外への発信になっている」と同会は話す。

は2014年の行事結果から掲載。コロナ禍で回覧板を止めた際も、資料をスキャンして載せるなど自治会活動の伝達手段として活用している。

「秘訣はまめな更新。ちよつとした情報もあげている」と佐藤会長。らっきょうの作り方やかかと落とし体操といったテレビなどで得た情報もアップし、閲覧者の飽きが来ないように工夫する。住民らは「話題が豊富。今日は何がとファンもいるかもしれない」とし、「会議で聞いた情報の再確認に役立つている」などの声もあった。

佐藤会長は「次世代につながるためにもホームページの活用が広がれば」と期待を込めた。

## 人物風土記

○…今年5月の小紙で「3000超のバズリ」と紹介してから早3カ月。自治会長として更新を担当する和泉中央南ハイツ自治会のホームページアクセス数が、計測を開始した3月末からの累計で1万3000を突破した。同じ泉区連合自治会町内会長のサイト内でまめに更新している他自治会の閲覧数が4000～5000の中、異例ともいえるアクセス数に「度肝を抜かれた思い」と喜びを隠せない。

○…アフリカの未電化地域解消に取り組む自慢の長男が、パソコンの使



●区内では異例の1万3000アクセスを誇る自治会ホームページを管理する

**佐藤 茂さん**

和泉中央南在住 74歳

### 晩酌代わりにサイト更新

○…伊豆の出身。小学

○…今後取り組みたいと思っているのが、支援が必要な一人暮らしの住民のリスト化。完成から半世紀近くを迎え、団地の住民も高齢化が進んできた。「一人ひとりにちゃんと支援してくれる人を決めて、買い物支援などができるようにしたい」とまだまだ休み知らずだ。

○…今後取り組みたいと思っているのが、支援が必要な一人暮らしの住民のリスト化。完成から半世紀近くを迎え、団地の住民も高齢化が進んできた。「一人ひとりにちゃんと支援してくれる人を決めて、買い物支援などができるようにしたい」とまだまだ休み知らずだ。

○…今後取り組みたいと思っているのが、支援が必要な一人暮らしの住民のリスト化。完成から半世紀近くを迎え、団地の住民も高齢化が進んできた。「一人ひとりにちゃんと支援してくれる人を決めて、買い物支援などができるようにしたい」とまだまだ休み知らずだ。

あつとほーむ

デスク

「探すと記事は毎日あるものですね」。人物風土記で紹介した佐藤会長が、毎日更新中の自治会ホームページにこう書いておりました。うう…耳が痛い。私も精進します。さて会長の奥様、京子さんは自治会内でさわかスポーツ普及委員を担当。海外にあるような公共スペースの卓球台設置を、泉区でも実現出来ないか区に提案中だそうです。商店街の「スリッパ卓球」なんてももありましたし、街中に卓球台、面白いかも。(K)

## 泉区連合自治会町内会長会

泉区連合自治会町内会長会のウェブサイト（http://www.izumikuren.jp/）では、各自治会町

### ●南ハイツ自治会の特色

#### ～和泉中央南ハイツ自治会～

令和元年5月12日の管理組合総会に於いて、和泉町地区から「和泉中央南ハイツ」に名称を変更しました。名称変更からまる2年。すっかり定着しネット検索でも即出るようになりました。

当南ハイツ自治会は184世帯から構成され、会員は157世帯です。小さい故に各執行事も仲良く、他世代交流が盛んに行われています。

管理組合とは車の両輪のごとく、防災備蓄班は管理組合で予算化し、備品についても管理組合で購入しています。管理その他運用は自治会でを行っています。

文字のサイズ  
小 中 大

このページの訪問者数

累計：003191

今日：000003

昨日：000004

令和3年5月12日

自治会日より

\* 6月2日第三公園が寄贈になりました。 (2021/05/03)

\* 令和3年5月5日（日）山形県産品フェア開催。 (2021/05/03)

\* 4月11日第4回自治会定期総会が行われました。 (2021/04/08)

\* 令和3年4月会費 (2021/04/08)

\* 令和3年3月23日、公財受贈金功労者表彰 (2021/03/25)

\* 令和3年3月会費 (2021/03/18)

\* 令和3年2月会費 (2021/02/28)

\* 令和3年1月会費 (2021/01/09)

\* 第三公園が寄贈になりました。 (2020/02/04)

\* 町のはらっぱが寄贈になりました。 (2020/05/08)

●お知らせ

アクセス数が3000を超えた和泉中央南ハイツ自治会

内会のトップページにアクセスカウンターを設置した。いくつかの自治会町内会からの要望を受けての実装。今年3月20日時点からの累計と、当日・前日の訪問者数をサイト左側に掲示している。

中でも和泉中央南ハイツ自治会のページは累計アクセス数が3000を突破。一日に100アクセスがある日もあるという。同自治会の佐藤茂会長は「区役所の人に言われて気が付いた。まめに更新しているので見てくれている人も多いのでは」と心境を話した。

## 泉区連HP

### 訪問数をカウント

3000超の「バズリ」も

泉区連合自治会町内会  
長会のウェブサイト（http://www.izumikuren.jp/）では、各自治会町



和泉町第三公園を訪れた深川区長（前列左）

泉区役所では区内で活動する公園愛護会やハマロードサポーター、水辺愛護会で長年活動した人を毎年表彰している。

例年では表彰式を開いているものの、今年は密集を避けるため深川敦子泉区長自らが今回対象となった17団体の活動場所

## 愛護功労者を表彰行脚

### 区長が各団体訪問

を直接訪問。感謝状を手渡した。深川区長は「現場で手渡す機会は初めて。活動している状況を見ることができて良かった」と印象を話した。

対象者は以下の通り（順不同・敬称略）。

#### ◇公園愛護会

高井澄（中田町第五公園愛護会）、元山健（上飯田けやき公園愛護会）、矢島八重子（中田町第八公園愛護会）、添田新治（緑園東田谷公園愛護会）、市川勇男（岡津宮ノ谷公園愛護会）、館野

規子（中田西一丁目公園愛護会）、柴田清（富士塚公園愛護会）、朝倉昭男（和泉アカシア公園愛護会）、木村大六（岡津竹ノ鼻公園愛護会）、佐藤京子（和泉町第三公園愛護会）

#### ◇水辺愛護会

引地利明（富士見水辺愛護会）、横山和夫（憩いのまほろば水辺愛護会）、町田稜子（和泉川中央水辺愛護会）、高橋巖（花友水辺愛護会）、熊坂喜久次（もぐり橋水辺愛護会）

#### ◇ハマロードサポーター

福田正志（緑園一丁目クリーン&グリーンアクション）、小菅賢三（本郷町内会）

和泉中央南  
ハイツ自治会

## 黄色旗で安否を発信

### 有事の支え合い強化にひと工夫



安否確認旗を掲げる役員たち

同ハイツは1974年—in184世帯が暮らしてに完成。9棟の建物に現—in。自治会では、近年

和泉中央南ハイツ自治会(旧和泉町団地自治会)は5月に実施した防災訓練で「安否確認旗」を使った取り組みを始めた。高齢者・要援護者へのサポートを迅速かつ正確に行い、適切な避難につなげるのが狙い。

各地で発生している自然災害などを教訓として、自主防災組織の強化や防災備蓄品の充実に努めてきたが、居住者の高齢化が進む中、災害発生時の避難を最優先に考えることが一番の課題は隣近所の見

える化にあった。

最初に進めたのは役所と連携し、有事に支援が必要な支援者の確認。その上で、全居住者の効率的な安否確認方法を模索結果、安否確認旗の活用が持ち上がった。

使用方法は、有事の際に建物人口側から見えず窓に旗を掲げるだけ。これにより、委員らが階を上り下りして状況を確認する必要がなくなった訓練では避難時間の短縮にもつながったという。

自治会役員らによれば、普段から継続してコミュニケーションをとることを各様の委員が共有。その成果もあり、初の取り組みとなった確認旗も、割以上の活用が見られた。佐藤茂会長は旗利用の継続と定着、要支援者のサポート強化、残り1割への協力要請を課題に挙げ、「防災への関心を高めることが対応力の強化につながる」と力を込めた。